

リウマチ通信

Vol. 12

平成27年3月号

リウマチの肘の痛みの手術治療 人工肘関節全置換手術

関節リウマチは、体内の関節に影響をおよぼしてきます。現在のリウマチ治療は、リウマトレックスや、生物学的製剤の開発実現化もあって、治る病気とまで言われるようになってきました。大変な福音です。

これらの薬剤が使用される以前にリウマチになられた方には、関節の痛みが強い人、関節の動きが悪い人、力が出ない人達が居られます。

上肢については、肩、肘、手関節、指に影響が出てきます。特に肘関節が障害されると食事をするとき手が口に届かない、服を着るときに困る、物を取るときに困る、手のひらが上を向かないので不便だ、などいろいろと毎日の生活の中で困ることが出てきます。

サポーターや装具を使用して改善を図りますが、効果が十分に得られないときは、手術治療が可能です。関節形成術もしくは肘の人工関節（人工肘関節全置換手術）を行います。肘の関節形成術でも痛みが比較的良好に取れて動きもよくなってきますが、人工肘関節はさらにより効果が得られます。腕に止血バンドを使用して手術を行うので輸血は通常必要ありません。外来通院リハビリも可能です。人工肘関節の手術は、適切な機種を選択と正確な手術が必要ですが、十条武田リハビリテーション病院人工関節センターでは、股関節や膝関節の人工関節の他に、人工肘関節全置換手術や肩関節の置換手術も行っています。困っておられる方にはおすすめさせていただきたい手術です。リウマチセンターで相談されることも一案です。



右リウマチ肘



人工肘関節全置換手術



術後レントゲン

(文責 医師 真多 俊博)

第2回リウマチ講演会・懇親会を開催しました

平成27年2月14日（土）にリウマチ患者さんを対象とした第2回リウマチ講演会・懇親会を開催しました。

リウマチ科部長の益田郁子先生の開会のあいさつの後、

- 【1】京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科准教授の大村浩一郎先生からリウマチセンターの取り組みや、わくわくバインダーの活用法について
- 【2】当院リウマチ科医長の駒野先生から、リウマチの教育入院について
- 【3】リハビリテーション科の島科長からは装具を含めたリウマチのリハビリテーションについて
- 【4】最後にリウマチ科部長の益田先生からは関節の腫れと痛み、エコーの有用性について講演がありました。

その後、リウマチセンタースタッフと患者さんとの懇親会が始まり、終始和やかな雰囲気ではみなさんは医師や理学療法士へいろいろな相談をされていました。患者さんと医療スタッフ、患者さん同士の交流がこれからもどんどん広がっていけば良いなと感じました。

大変良い講演会・懇親会で、第3回への開催へ繋げていきたいと思えます。



（事務局 不破 達就）